

2021
12月

Sasai ラボ

発行/佐佐井株式会社
北九州市小倉南区上曾根新町 2-25
☎093-472-1335
FAX 093-472-1790
http://www.bf331.com

コロナ追い打ち 消費低迷で

製糖苦境 工場閉鎖や在庫過剰

砂糖の消費が激減し、沖縄や北海道の製糖所の経営を圧迫している。消費者の低甘味志向による長期的な需要減に、新型コロナウイルス禍が追い打ちをかける。北海道では本別町の製糖所が砂糖の生産をやめる。沖縄の黒糖は過去最大規模の在庫となり、製糖所は経営の展望が見いだせない状況だ。製糖所は農家や地域経済と切り離せない存在で産地は消費拡大の糸口を模索する。

製糖は農業だけでなく、関連産業の裾野が広い。特にサトウキビやテンサイは離島や気象環境が厳しい土地でも栽培ができる品目として、地域に欠かせない存在だ。JA や製糖所は、情報発信や新たな需要開拓などを進めており、今後も需要喚起策を強化していく。

—日本農業新聞 2021.11.17—

ギョーザ無人店、出店拡大

首都圏で無人のギョーザ販売店が増えている。新型コロナウイルスの感染拡大で「非接触」需要が追い風になっているほか、長く続いた飲食店への営業自粛要請を受け、中華料理店やギョーザの業務用販売業者が収益下支えの代替策として展開している側面もある。少しずつ感染状況が改善し、首都圏でアルバイトらの人手不足の深刻化も見込まれる中、人件費のかからない無人店の出店は加速しそうだ。

ギョーザ無人販売店のブームの火付け役となったのは YES（東京都国分寺市）が手掛ける群馬県みなかみ町（旧水上村）の温泉街にある老舗中華料理店発祥の「餃子の雪松」だ。冷凍庫から商品を取り出し、賽銭（さいせん）箱風の箱に代金を入れて購入する。設置後の販売は想定以上に好調だ。急きょ急速冷凍機を追加で導入し、現在でも土日は 60～70 箱程度が売れるという。一日経 MJ2021.11.24—

21年
地方発
ヒット

■岡山発、数か月待ち「食べるバター」が大賞

長引く巣ごもり生活で、ネット通販はしっかり定着した。思わず買いたくなる他にない優れた商品を作れば、コロナ禍であっても、全国どこからでもヒットを生み出すことは出来る。
—日経トレンド 12月号—

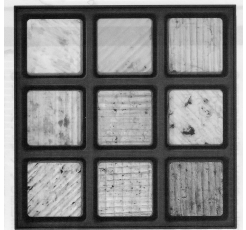
福岡の特撮ドラマ「ドゲンジャーズ」 ローカルヒーロー作品にスポンサー40社

特撮ドラマ「ドゲンジャーズ」は、福岡を舞台に大賞薬局「薬剤戦士オーガマン」、山代ガス「ヤマシロン」などタイアップ企業のロゴを纏ったローカルヒーローが活躍する作品だ。イベント会社・悪の秘密結社が制作し、20年4月に第一期を放送すると、コアな地元ネタや映像クオリティの高さなどが話題を呼び高視聴率を記録。21年の第二期にはスポンサーも1期の数社から40社以上に激増。期最終回では番組名 Twitter でトレンド1位に。

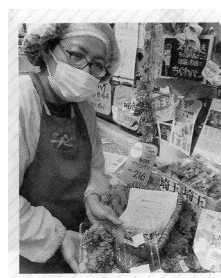


岡山 見た目はまるで洋菓子 カラフルフレーバーバター

一見、カラフルなチョコレートのようにも見えるが、実はバターだ。岡山県に本社を構えるナショナルデパートの「カノープル」は、様々なフレーバーの発行バターをスイーツのように味わう、今までにない「食べるバター」の専門ブランド。「ブルーアロマティゼ」と名付けられたこのバターのシリーズは、ECサイトでは多くの商品が1から6ヶ月待ちの盛況ぶり。



埼玉 「そこらへんの草」が地域を結ぶ 地元スーパー発の町おこし



映画化もされた漫画「翔んで埼玉」のセリフ「埼玉県人にはそこらへんの草でも食わせておけ！」にちなみ、春日部市の「みどりスーパー」が野草を使用した「そこらへんの草天丼」を考案。町おこしに発展している。